

産地情勢 (2024.3.22)

ブラジル産とうもろこし

ブラジル国家食糧供給公社は、とうもろこしの価格低下で作付面積が減少し、23/24 年度の生産見通しを 0.9 百万トン引き下げ 112.7 百万トンとした。サフリナ・コーンの作付けは 93%進捗した。(昨年 82%)。(3 月 13 日)

3 月の降水量が平年を下回る予報が出ており、心配される。(3 月 6 日)

作付け遅れとシカゴ定期の下落で作付面積の減少が懸念されていたが、サフリナ・コーンの産地調査の結果、ブラジル国家食糧供給公社は、23/24 年度の生産見通しを 4 百万トン引き下げ 113.6 百万トンとした。(2 月 9 日)

クロープ カレンダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズン・コーン (夏作)		8-9 月	11-12 月	2-5 月	22%	主に国内飼料需要向
サフリナ・コーン (冬作)		1-3 月上旬	4 月	6-8 月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

ブラジル産大豆

収穫は 62%進捗した。(平年 65%) 生産量の予測に 2 千万トンもの幅がある。(3 月 20 日)

ブラジル国家食糧供給公社は、単収減少で 23/24 年度の生産見通しを 2.6 百万トン引き下げ 146.9 百万トンとした。(3 月 13 日)

ブラジル国家食糧供給公社は、高温乾燥による作付面積と単収減少で 23/24 年度の生産見通しを 4.9 百万トン引き下げ 155.3 百万トンとした。(1 月 11 日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープ カレンダー	9 月-12 月初め	1 月	1 月-4 月

アルゼンチン産とうもろこし

ブエノスアイレス穀物取引所は 2023/24 年度の生産予想を 150 万トン増加し、5650 万トンとした。(1 月 30 日)

作付けは 85%進捗した。天候は改善し生産量は当所見通しより増加しそうである。(1 月 16 日)

とうもろこしの作付けができなかった生産者が大豆に転換してとうもろこしの作付面積が減少するとみられる。(11 月 15 日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は 2 段階に分かれる。	9-11 月始め	12-1 月	3-4 月
	12-1 月	3-4 月	6-7 月

アルゼンチン産大豆

ブエノスアイレス穀物取引所は 2023/24 年度の生産量予測を 52.5 百万トンとしている。(3 月 20 日)

北部産地で早植えのとうもろこしの作付けができなかった生産者が大豆に転換して大豆の作付面積が増加するとみられる。(11 月 15 日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクropp カレンダー	10 月-1 月中旬	2 月	3-6 月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (3 月 8 日)

とうもろこし (百万トン)

	2021/22	2022/23	2023/24
米国 (9-8 月)	381.5	346.7	389.7
ブラジル (3-2 月)	116.0	137.0	124.0
アルゼンチン (〃)	49.5	36.0	56.0

- ・米国・ブラジルの生産量は変化なし。
- ・アルゼンチンは 2022/23 年度の生産量が 2 百万トン、2023/24 年度が百万トン増加。

大豆 (百万トン)

	2021/22	2022/23	2023/24
米国 (9-8 月)	121.5	116.2	113.3
ブラジル (2-1 月)	130.5	162.0	155.0
アルゼンチン (4-3 月)	43.9	25.0	50.0

- ・米国・アルゼンチンの生産量は変化なし。

・ブラジルの生産量が 23/24 年度は百万トン減少した。

*北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA)